

# 令和元年度 追跡評価書

- 研究機関 : (株)NTTドコモ、(株)パスコ
- 研究開発課題 : 「自律型モビリティシステム(自動走行技術、自動制御技術)の開発・実証」のうち、課題Ⅲ:高度地図データベースの高効率なリアルタイム更新・配信技術の確立
- 研究開発期間 : 平成 28 年度
- 代表研究責任者 : 瀬戸口 純一

## ■ 総合評価

### (総論)

研究計画に従って順調に進められており、継続的に成果展開を図っている。また、本研究開発が「横須賀市におけるスマートモビリティ(賢い移動運搬手段)の開発・実証の推進及び関連産業の集積を図る「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」に発展したことは産業や市民生活の好影響として評価される。

一方で、共通プラットフォームとしての展開や、災害時や渋滞時に実用となるシステム構築には引き続き努力が必要である。

### (コメント)

- 各種イベントでの普及活動を5件以上、事業への展開も2件以上と目標を達成できている。本研究開発が「横須賀市におけるスマートモビリティ(賢い移動運搬手段)の開発・実証の推進及び関連産業・周辺産業の集積を図る「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」に発展したことは産業や市民生活の好影響として評価される。しかし、共通プラットフォームとしての展開にはまだまだ努力が必要である。
- しっかりとした成果を得ているとともに、継続的に成果展開を図っている。あとは、技術をどのように企業の中での価値につなげていくかである。

- 研究計画に従って順調に進められており、実用化に向けた取り組みが積極的に行われていると考えられ、今後の成果が期待される。
- YRPでの実証を含めて、成果は挙がっているが、災害時や渋滞時に実用となるシステム構築には引き続き研究開発が必要である。

## (1) 政策目標の達成状況等

### (総論)

得られた成果をもとに、より効率的な配信を行うための無線トラフィック低減のための取り組みや、その他の技術の検討が引き続き行われている。また、開発技術をYRPに展開し、横須賀市等が推進する「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」の立ち上げ（平成30年3月）にも繋がっており、当初設定した目標はすべて達成された。

さらに、高度地図データベース(DB)を効率よく更新・配信・受信を行うための基盤技術を確立したほか、DBの効率的な流通に関するガイドラインが策定され、スマートIoT推進フォーラムで公開されている。

### (コメント)

- 各種イベントでの普及活動を5件以上、事業への展開も2件以上と目標を達成できている。特に開発技術をYRPに展開し、それが横須賀市等が推進する「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」の立ち上げ（平成30年3月）にもつながっている。
- 自律型モビリティの実用化にはまだ時間がかかるものの、実証実験などに研究開発成果を展開している。
- 平成28年度の成果をもとに、より効率的な配信を行うための無線トラフィック低減のための取り組みや、その他の技術の検討が引き続き行われている。ガイドラインを公開し意見を求めている。
- 当初設定した目標は全て達成。受託者以外の大学の自動走行車に提供して走行できるか実証している。
- 地図DBの更新、配信管理、受信技術といった成果がきちんと得られているとともに、ガイドラインをスマートIoT推進フォーラムなどで策定している。

## (2) 成果から生み出された科学的・技術的な効果

### (総論)

DB の更新・配信・受信の効率をさらに上げるため、無線を含めた技術開発が誘引されている。

#### (コメント)

- 後継プロジェクトにおける技術開発が誘引されている。
- DB の更新・配信・受信を行うための基盤技術を確立し、さらに効率を上げるために無線を含めた検討がなされている。
- DB のバージョン管理など、高度地図 DB を効率よく更新・配信する技術を確立している。

## (3) 副次的な波及効果

### (総論)

本研究開発が「横須賀市におけるスマートモビリティ(賢い移動運搬手段)の開発・実証の推進及び関連産業・周辺産業の集積を図る「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」に発展したことは、産業や市民生活の好影響として評価される。

本 R&D の成果は、SIP 自動走行プロジェクトにおける大規模実証実験(H29～)の実験環境の構築・運用に使用されている。

#### (コメント)

- 本研究開発が「横須賀市におけるスマートモビリティ(賢い移動運搬手段)の開発・実証の推進及び関連産業・周辺産業の集積を図る「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」に発展したことは、産業や市民生活の好影響として評価される。
- 地図データベースの更新、配信管理、受信技術といった成果がきちんと得られているとともに、ガイドラインをスマートIoT推進フォーラムなどで策定している。
- 「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」への取り組み・自動運転デモンストレーションの実施がなされている。
- SIP の自動走行プロジェクトに対して、地図の更新・配信の必要性を明確化できている。

## (4) アウトカム目標の達成に向けた取組計画の達成状況等

### (総論)

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジでの展示などを行うとともに、他の研究開発プロジェクトにも深く関わって成果展開をはかるなど、積極的に活動を継続している。また、後継プロジェクトと合わせて YRP の実環境での実証実験や広報活動などを積極的に行っている。

### (コメント)

- ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジでの展示などを行うとともに、他の研究開発プロジェクトにも深くかかわって成果展開を試みているなど、積極的に活動を継続している。
- 各種イベント等で成果の発表、普及活動が行われている。新たなプロジェクトへ成果展開がなされている。
- 後継プロジェクトとあわせて YRP の実環境での実証実験や、広報活動などを積極的に行っている。

## (5) 政策へのフィードバック

### (総論)

本 R&D の成果は、SIP 自動走行プロジェクトにおける大規模実証実験(H29～)の実験環境の構築・運用に使用されており、成果のフィードバックが適切に行われている。

### (コメント)

- 自動走行に向けた基盤技術開発が着実に行われた。しかし、共通プラットフォームとしての展開にはまだまだ努力が必要である。
- 必ず必要となる技術である。あとは、この技術をどのように企業の中での価値につなげていくかである。この難しさが明確になれば、これはこれで研究開発の成果と言える。技術を価値につなげるにあたって、明確にしなければいけない重要な点である。
- 地図情報の扱いは自動運転において中核となる情報技術の一つであり、そのためのプロジェクトとして重要なものであると考えられる。また、DBの構造などはSIPの実験にも用いられており、成果のフィードバックが行われている。
- 当初設定した目標は達成したが、台風15号や19号のような倒木・水害時や渋滞時でも通信トラフィック1/2で十分なのか検討が必要である。